躾草娘庭訓

山東京山作
歌川豊國画

1049
逍遙文庫
文庫6
988

一對男時花歌川　天竺德兵衛物語
朝茶湯一寸口切　今昔小町譚
却說浮世之助話　松緣高砂話
先讀三國小女郎　其寫繪戲俤
昔語丹前風呂　戀女房讐討双六
濱真砂石川草紙　躾草娘庭訓

題辭

應志ゝ也紆差年濃於津之也都多者保年耳遠南
胡者已通之也紆介越都途ゝ夷不者多ゝ飛登里
不多理途波太於布礼留農者於南古天難意途異
飛乎之玄雄年那伊万加波天以徽年耳可以低遠
恢延之不互乃愛也

山東京山撰

彫梓則奏其
巧裝演則呈
其精　文魁堂藏

文庫6
988

濱名家之
妾半贈栗
田要人和哥

かくとやど たのしくあそと きくときさへ

うきがまとの ちぎりなりけり

○帶屋町ハたじめ濱名家おつゝそ栗田要人と名のる○ちなのやおそんハなるあどのてゝ半が再生なり

二人の妾
平生
えびひる
龍とあらそふる
面のごと
秘蔵
墨をもつて
描えがく
半
橋富

松ヶ左仲
かさかち幸左エ門

京御馬場
帯屋町右エ門が
倉のうちより
鼬人ふ化して
立さる古又へ
養中ふ云ー
極天風雨無楊晴滿地
関山杜宇紅
○町右エ門妻
おきぬ

鶯の才玩
さうさるゐふ
うぐひす音
二の南
寶晉齋
○栗田仁内之一子
要之助正春
○片岡幸之進

○佐四幸左エ門一肱持之柿枝
○うらくゝ金。地七子。金ん獅子牡丹　兵藤五守国作

月下の老人

詞源かつたん

遠江の国千手の奈の影司源奈の氏久松、撰奈の
酒よぬけりそのむこるひ
鬼ひろし世の氏久酒酒とこの
源かつとして人の下
強食北条家の羅下よそ世
清門則氏といふ人おいしけ
侍所あまつ若冠あをた
男女ゑ清門と
ふう傳邪悪は曲老
ふ妻の清門の
ふ家の撰をあきりあいく
めんとえろりるるぞふてた
ふるに中函の復
漢人のきこえあり紙きて
妻よてるにふ
せて聞愛ふくり
めでたまひくりたる
ふれば書た清門が悪意
撃公させふる嘘が有りへ
いとの孫ひとのそこ
そひしりいんとふくこれ
ふれ取ふこれ
あく卯ろとたヤが紀ひ

仁内ガ一子
要人之助

要

仁

○羊より要人へとるらんざく

かくをんどたのしこうのときくうよ

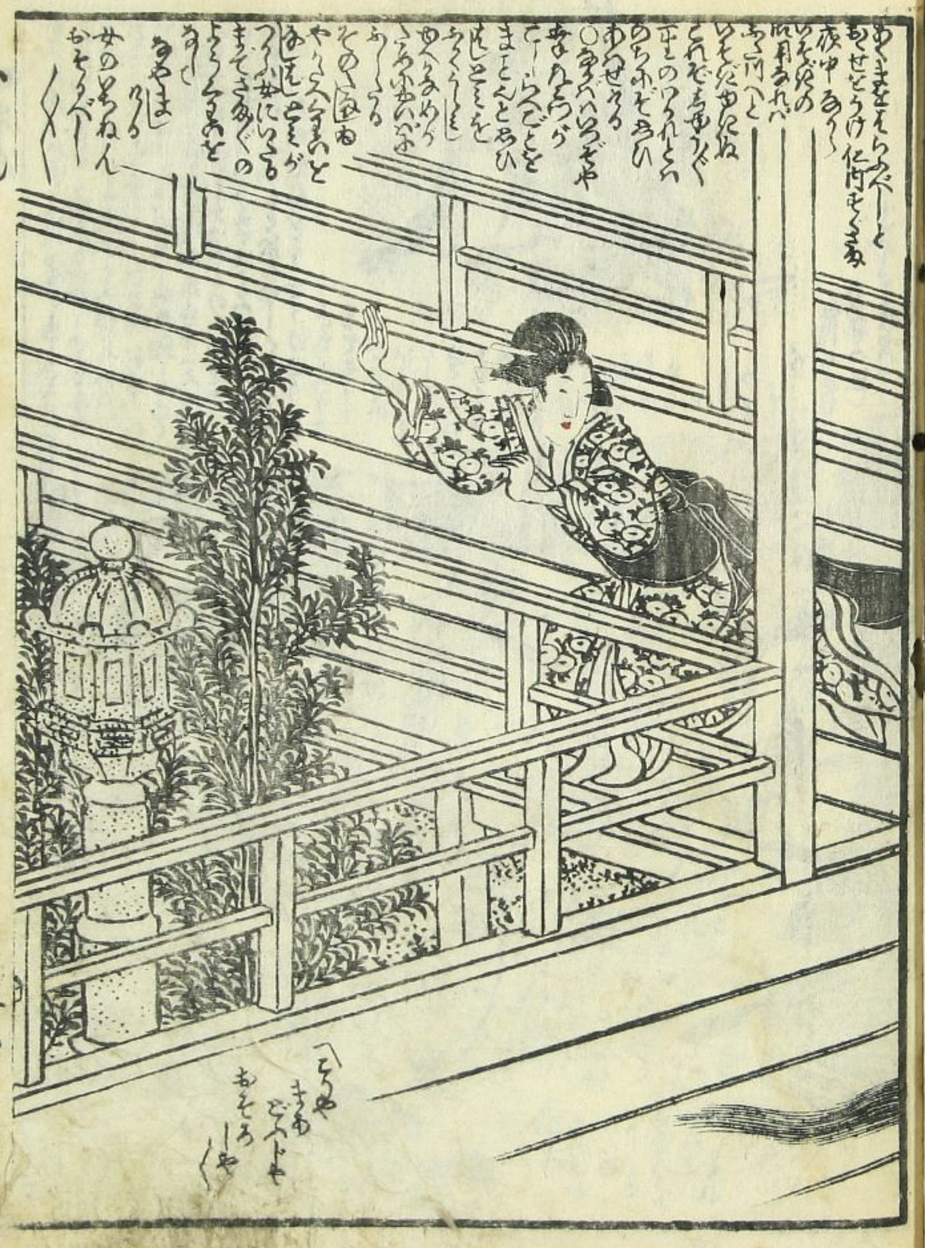
うさぎまとるのちぶりあり

栗田仁内作

さげもの

まづきにさくのりんろう

かくてさうぐしかみのめふともおられてそのいえにいろうさきつくゆもとをぞおろしかくまそ
ロしろをめでたまうることひとさかしくんおこうろこ一月にあまれるうれしさこそことぶみもつぼうこ
そのおんをたるるくいひとくわりおきうせをもたさかりわうこかとうれちめこふのうなとふしそ
父いうしゆるのくふりふつのとしたこにわうんおやん母ありてらうくの月とあり
ひんくをたをるてうけかうこううのしゆやうこうにそやこうちふ
さのつこうとうくかりしこのまろぐうにうることもあうしぐそ
うこれのひ女の月一つうこをさのあることもあうしぐそ
ちしゆの月さ母へねがひうこをさのうひんとうこ
ちくどもあれたはれ中ぐむすめいおふしゆうの
いこうをこのこうこをうちしとと
ワこれれんいおやのもちあふとそ
をけだちをたのこやうこ月さちのこ
らこのうこをうこんとうこ人一山の
れんがそだこ月ろそやこうこうぐ
おうこてふしぐろのこをんまうこう
いうにまこふにあしうこきこう
をけぐちぐうのこさ
うこあてお月にやりこそ



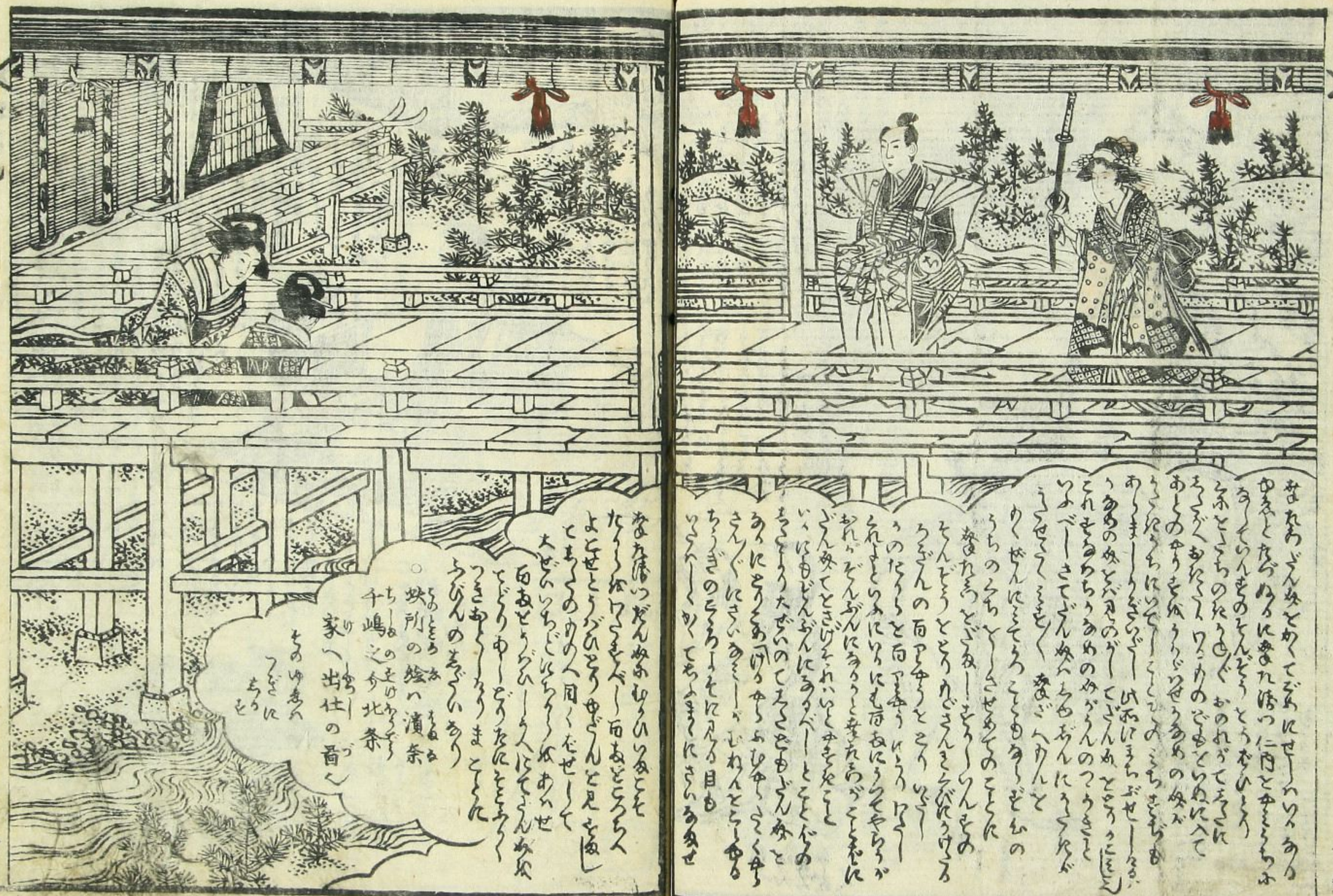
仁

仁

だん女仁内ゞおゞのと見てきやうてんす
さてハ今うちうけ〜ゆうがいのわ〜こそ
ちゐおたんのうさに成れごゆちめ〜やうこと
くるいちうゑ〜おうにとりつき
おいくハい〜や仁内さゑぶだん女ゞ
おとをあくうゆもくと
おくくせやしい
いくこ〜ませゐ
けさに
ゑうくる
うしろさぜ
まくこく
だまし
うちふ
くるゞの
うし
そもあう
ゆう
ぎんねんや
ゆくまじ
あと
ゑうろけて
おちゐうの
くるに
ちゐゞやくと
うけゆたーゞ▲

▲こちらでまりくまてたぜ〜
えゞどのことをゐゞきまあつてくらゐん
うろつくまいゐゐんくたんなのおを色あり〜
いんをめそんぞう なまいちうゞ 么ゆくるい
るゐいともあれうのそんぞうと右色ごぜんと
又をゆどうおゞいのくるゐちう「コリヤさいとろの
そんぞうまてうゞひとりしろこハるんくぜん
ひねんやとゞいゞくぞうとうゐふりてをゐひ
おゞるひ行んのるゞゞくきはつゆおくをうゐ

かくてぞめい仁内ゞおゞのとぜゐひゐくゐゞやへ
ゐちうりゐのおをいのゐゐゐのやくゐうゐくゐるに
ちゐのゆどの天にいうり大ぜうのそんぞうを
うしゐゆのくゐ〜ぜうくゐ成よ
きゐゞともゐいぜゐゆくゐ〜ぜうくゐ成こと
くんゐゐゐくゐうけ めゆけくのへのゐせ〜め
ゐうりとてゐゐゞのいくいゐう〜ゐゆけられる
かくてゞんゆくゐめゐのゆゞがいれゞゐゞゐゐ
おさゐゐにくゐうゐるにくゐめゐのゆゞが
ゐゐきゐゐゐさ〜んゐゐふゐゐゐくゐ
ゐゐのくてゐされてゐさゞゐもゐそゞを
さゐうゐにれてゐうゐうゐんゆゞうの
うゐゞゐをうりゐゞゐうゐのてゞくりを
ゆもゐれけ一ゐゐんくゐうゐゐんくまうゐゞ
てにゐうりゐけゐゐおゞくゐるけくうゐゞゐれとを
くゐゐう ゐまれゐゐゞゐをゐゐうゐのゐゐんゐゐさてゐくゐうゐゞゐまれゐう
ゞんゆくゐけくゐうゐゐうゐゐゐ



娘庭訓後篇目録

山東京山作　歌川豊國画

第一　恨の衣　ぎとうふ字と訓でのむあみのおもん要人の助ハ武士とやめて長右衛つ結んでとけぬ帯やれ祝

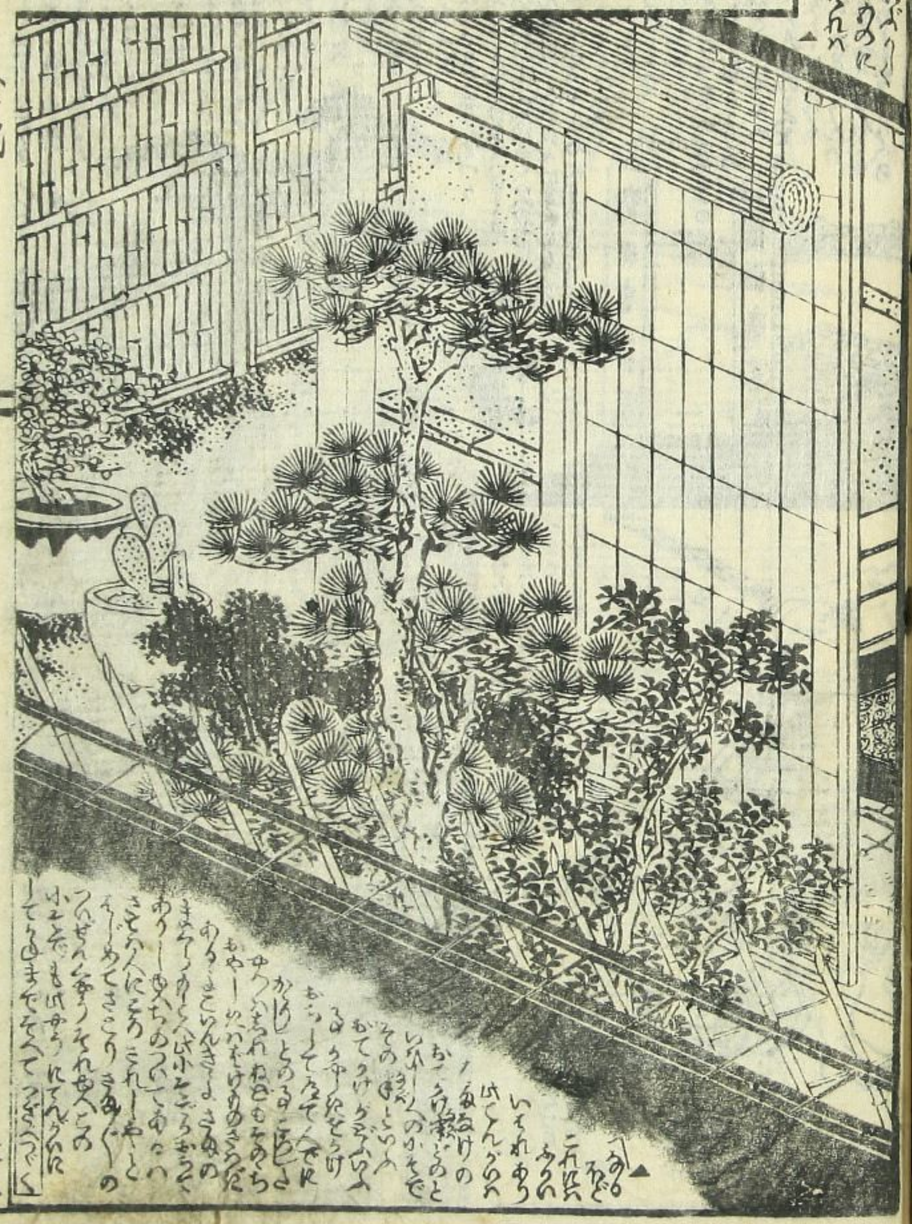
第二　縁の箒　彩さえ紺さん中ゝく善を夫婦連いせ海乃相の山ゝさいた紙小ちゝもんざ池の小路乃振袖

第三　操の刃　家重代の一振い光のさを女房ざゝろ嫁屑の浙の寄江下坂切かきゝれぬ親子共縁ゆてゝ多れ夜すの京平

第四　歡の杯　孝之進ゞ忠義ハ美金の帆再ゑに入弥陀の会縁樋川よかまれと蔵を親乃仇うゝゝ蓉ゝ涌蟹

つゆおいー
帯屋佐兵衛
帯や源おさめ
○信濃屋の茅ふて出生の音

帯



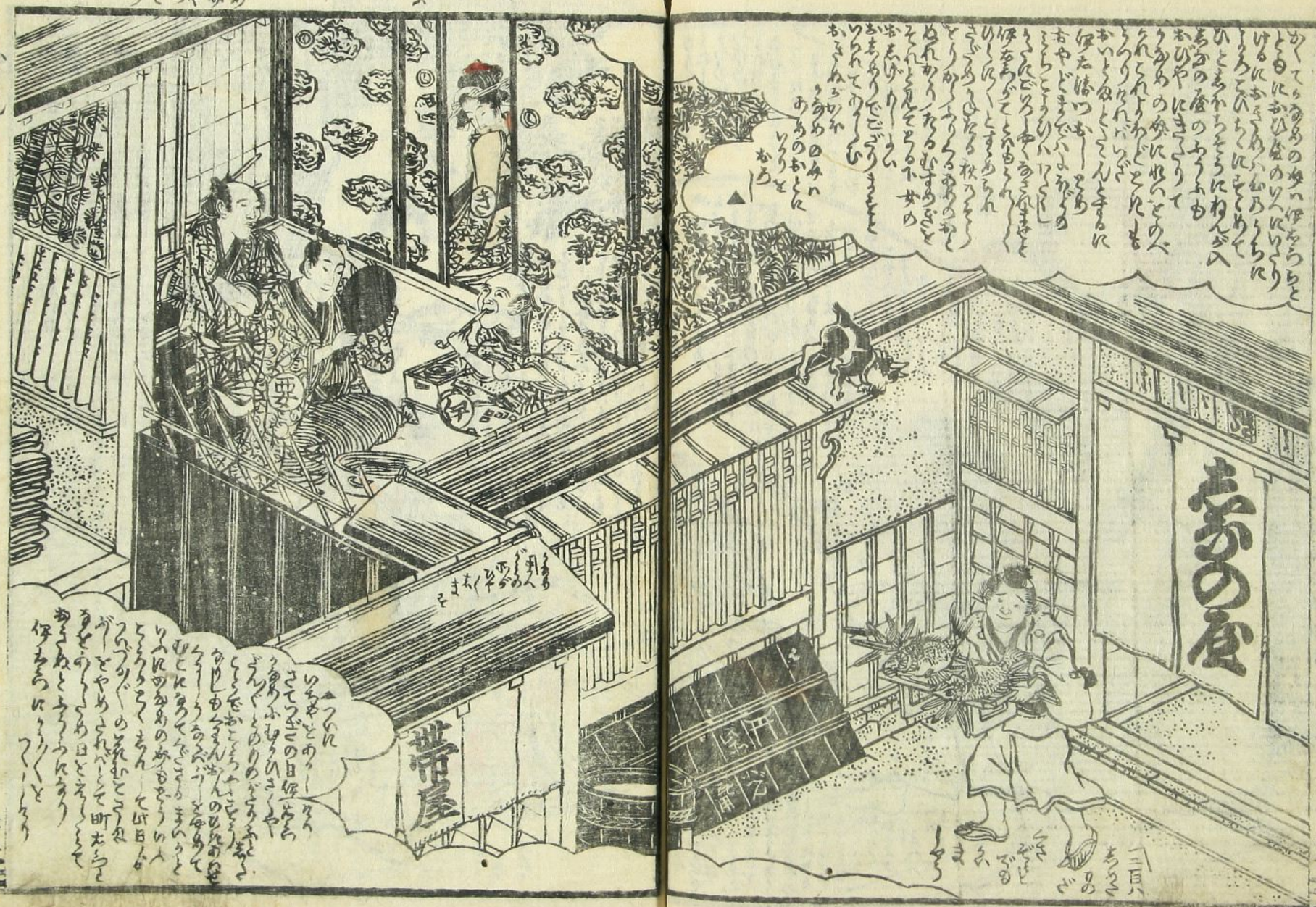
観世音菩薩
観世音菩薩

西女

入口

奉納
銅
十貫文

納
二十兩
天蓋一對
飯田
濵名

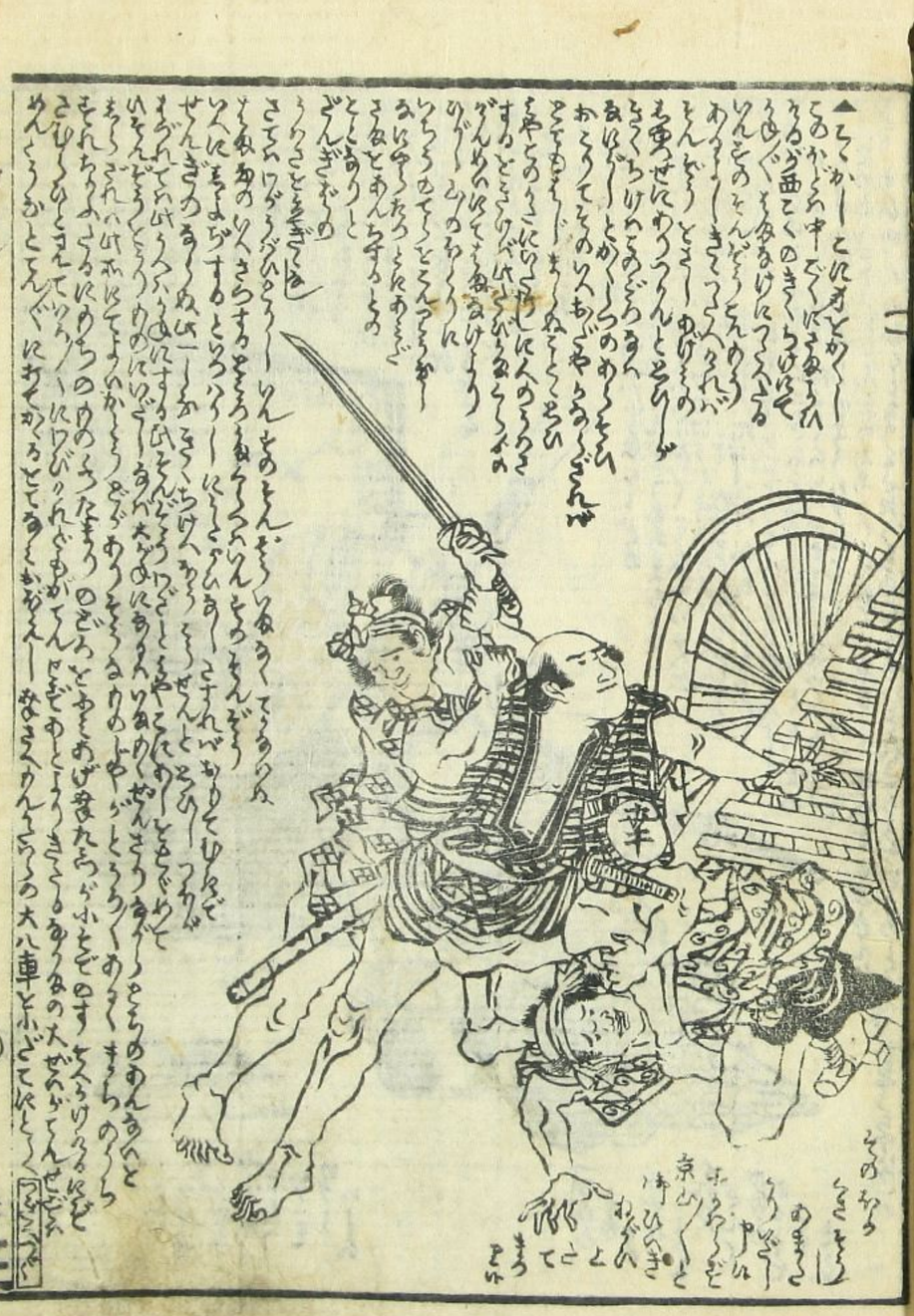

帶屋
春の屋

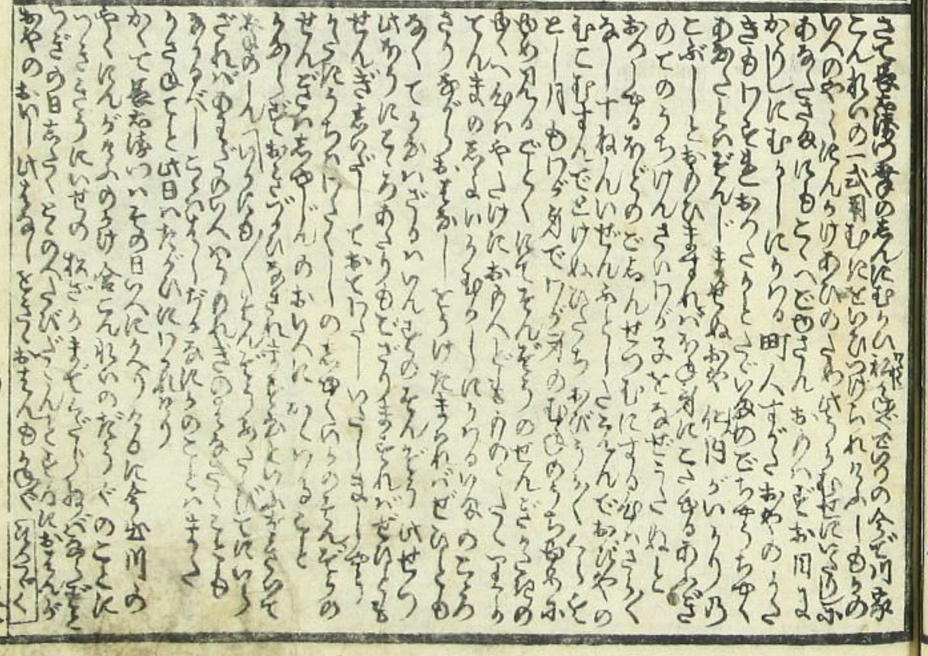
評曰

粟田要人助主人の家にゆくてゆかいなんものをこのせんぎといいことをきゝおやのうたれを
うくんとするたいまうとかへゝゝヨにてあび屋のむすこのとりしハてゝろへゞしろのあうぐ
いろにさんおがれさりしちんてのうれゞおび屋のむすめおきゝねだすぐこにまゝろひゝしをも
いひぐゝおりふにこれあるバゲあんゆんきんげきゆ かんにわけりてぜんせのすく
こゝとひれかあるがゝろとものゝまさゝゝゆくまるゞゝおそるゞゝゝ

これゝろのちゝ
十ゝまのねん
きゝうあるり
ごゝく
れゝろ丁

○京山仇





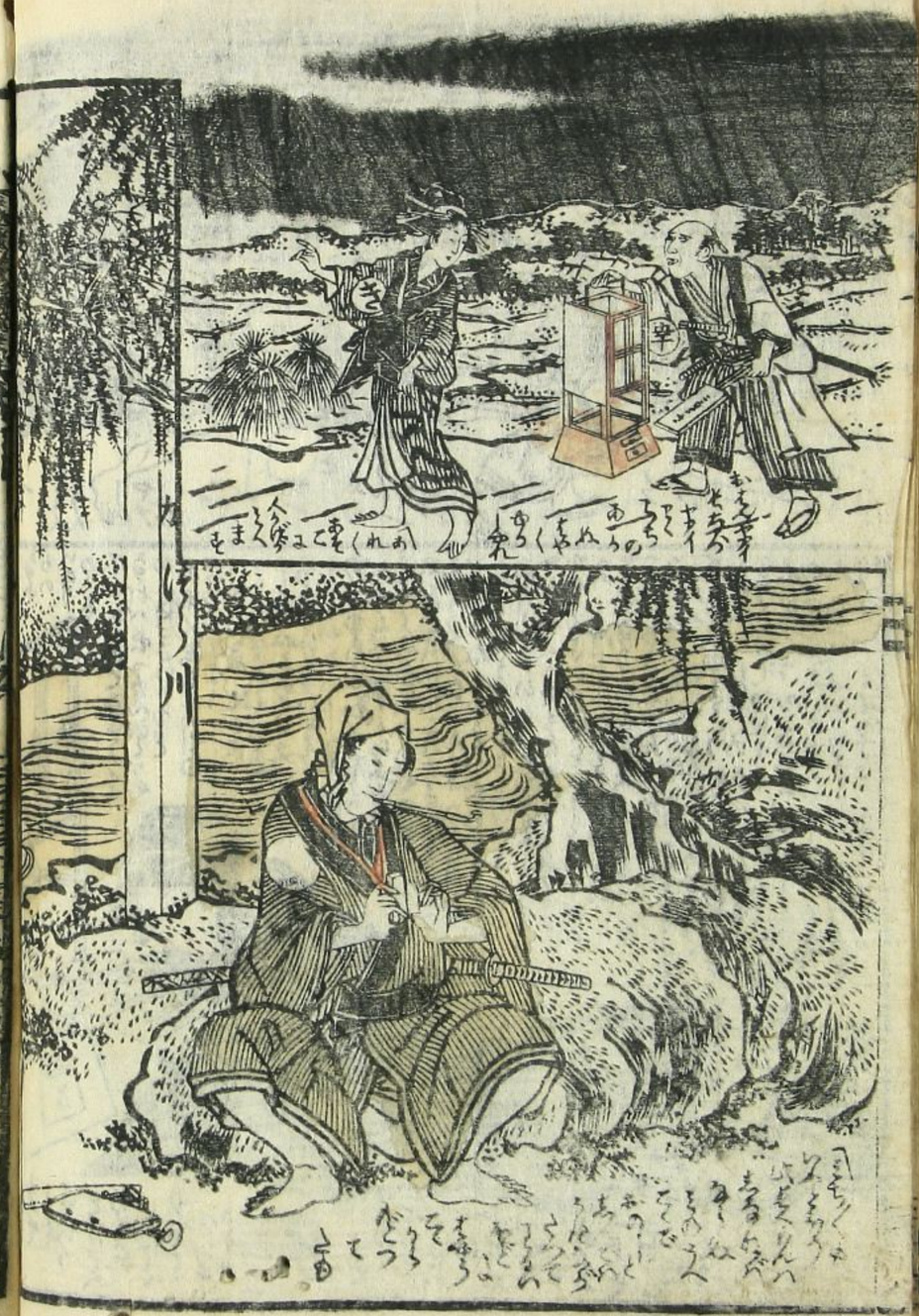
つづき

「うまそうなのは
ぜんぎの
あをざ
「とちのひと
まつ
まつと
ぞさん
ぜ

長
宗

さ
長

右
十



北雲漫画初編

全一冊

北雲子ハその所小秋翁の骨肉をうけて風情別よ親ゆるのあるべく人情をうく蒙一画よりてその風流もまた遠ふるを見へ画よ粧をふくみ見るふりかぶしてまあのぶよやすき粧工夫を心よりもちて京師の風と東都の風和中習をうつ出られるうかるある味ハ筆をとりてまあぶ者ろ上るべ心付ぐ〳〵呂与風見ろ時ハ世習普通の画臨本とのこ世の人の思ひ結んう情〳〵き事なをばそのすべをもるべ〳〵ろ山一冊よハ草花のまを我数多く出され花の形容蒙ろ理紋などくハ〳〵くろり易きやう画ぐれ重バ城ハ自在の筆勢比類なきものの形梨

狂画神事あんぐ

全一冊

画ハ神仏祭事の時家〳〵の形よかりけ武ハ社内吉中ふてしまお撫物焼おがてんの立まをを表と思る雨や彼川柳ものの粗匂ふく人情は愛せ〳〵ものに面ろうてとろ美虎先生例の宵識古実を交へも俗服ア見あさを要〳〵事ふ城ふつこを手を稽ふ

早稲田大学図書館
011688991570